

令和6年度海岸漂着物実態調査の結果について

1. 目的

海岸ごみの発生抑制及び回収処理対策の検討に資する基礎データを得るために、海岸漂着物の実態調査を行うものである。

2. 調査概要

(1) 調査方法

環境省「地方公共団体向け漂着ごみ組成調査ガイドライン(令和5年6月第3版)」に準じ、海岸漂着物の組成と量を調査した(表-1)。

表-1 調査概要

項 目	内 容
調査場所	山口県内の海岸4地点
調査時期	冬季(令和6年12月2日～12月10日)
調査方法	神浦海岸(周防大島町)、中浦海岸(防府市)、武久中継ポンプ場前海岸(以下「武久海岸」という)(下関市)、油谷大浦海岸(以下「大浦海岸」という)(長門市)において海岸漂着物量が平均的とみられる海岸線50mを調査区画として設定した。 調査区画内の漂着物(2.5cm以上)を回収し、種類別に個数、重量及び容積を計測した。漂着物の種類(表-2)は、プラスチック、発泡スチロール、ゴム、ガラス・陶器、金属、紙・ダンボール、天然繊維・革、木(木材等)、電化製品・電子機器、自然物、その他とした。ただし、プラスチックは別途カキ養殖用資材、ペットボトル、ビニール、その他の分類も実施した。

表-2 調査票に示すごみの大分類と本調査で確認された主な漂着物の種類

大分類		漂着物の種類
プラスチック		ペットボトル、ポリ袋、食器、食品容器、生活雑貨、ビニール、ロープ・ひも、漁網、カキ養殖用資材、浮子、その他プラスチック等
その他の人工物	発泡スチロール	発泡スチロール(フロート、ブイ)等
	ゴム	鞆等
	ガラス・陶器	飲料用瓶等
	金属	飲料缶、スプレー缶
	紙・ダンボール	飲料用紙パック等
	天然繊維・革	ロープ・ひも等
	木(木材)	角材等
	電化製品・電子機器	電化製品・電子機器
自然物		流木、灌木
その他		上記の分類に入らないもの

(2) 調査区画の設定方法

調査区画は、幅 50m で陸側は海岸植物の手前まで、海側は汀線までとした(図-1)。

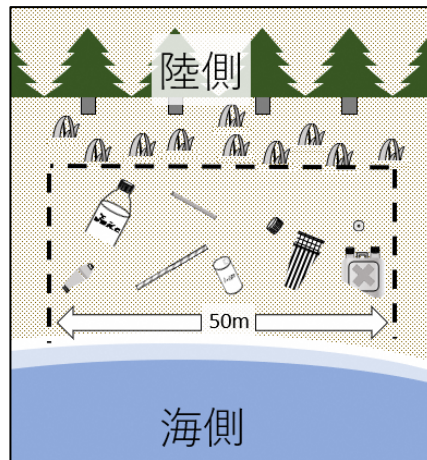


図-1 調査区画イメージ

(3) 調査地点

調査地点は図-2 に示すとおり、瀬戸内海側 2 地点、響灘側 1 地点、日本海側 1 地点の計 4 地点とした。



図-2 調査地点

3. 調査結果

(1) 海岸漂着物の重量(表-3、図-3)

- ・海岸漂着物の重量(海岸線 50m 当たり)は、大浦海岸が 1,389kg と最も重く、次いで武久海岸が 483kg、神浦海岸が 179kg、中浦海岸が 118kg の順であった。
- ・海岸漂着物の組成は、いずれの地点も自然物が最も多く、次いでプラスチックが高い割合を示した。
- ・プラスチック(発泡スチロールを除く)の組成で多かったものは、神浦海岸ではカキ養殖用資材が 41%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統：バケツや容器等の破片など))が 45%、中浦海岸では漁網が 34%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統：パイプ及びトタンのような建築資材など))が 47%、武久海岸ではロープ・ひもが 18%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統：鉢植えの底や生活雑貨系統の破片など))が 64%、大浦海岸ではロープ・ひもが 44%、その他(硬質プラスチック破片(主な系統：かご等)・浮子等)が 47%、大浦海岸ではロープ・ひもが 44%、その他(浮子(ブイ)(漁具)など)が 47%であり、木材(主な系統：建築資材など)も多く見られた。

表-3 各調査地点の海岸漂着物の重量

海域	市町	調査地点	重量 (50m当たり)
瀬戸内海側	周防大島町	神浦海岸	179kg
	防府市	中浦海岸	118kg
響灘側	下関市	武久海岸	483kg
日本海側	長門市	大浦海岸	1,389kg

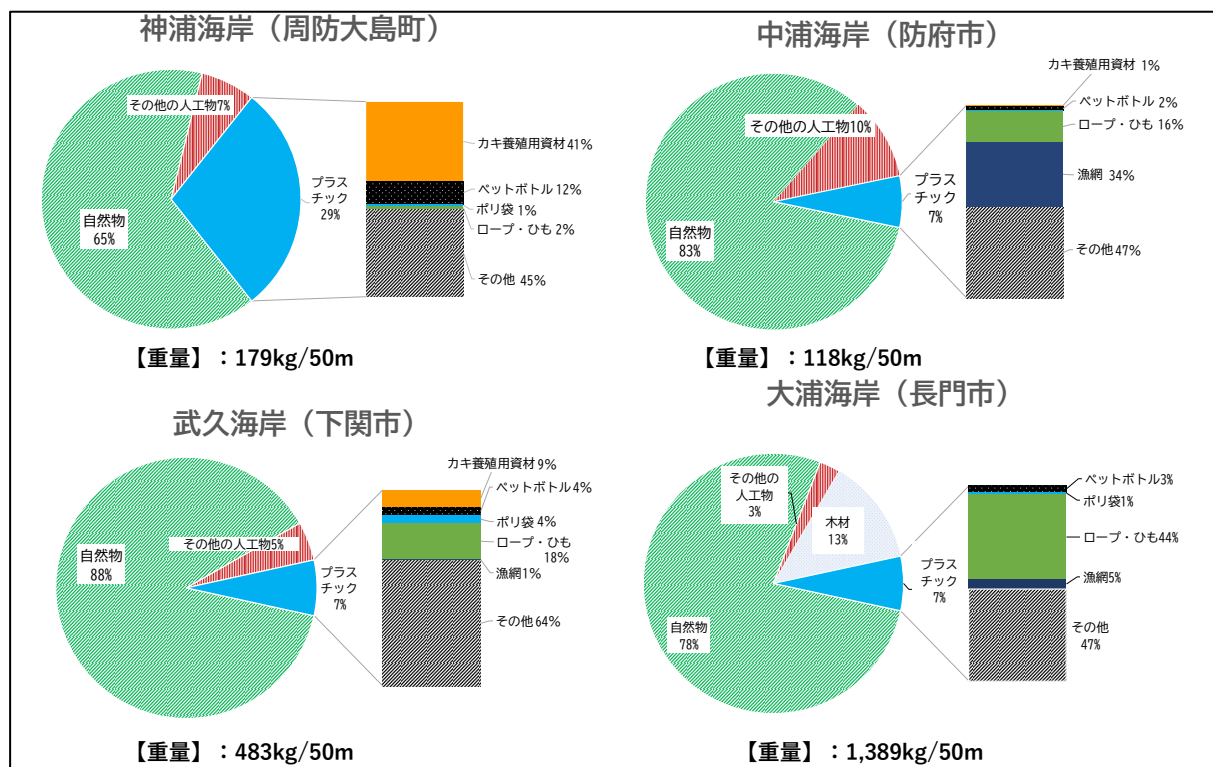


図-3 海岸漂着物の組成(重量)

注) 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある

(2) 海岸漂着物の容積(表-4、図-4)

- ・海岸漂着物の容積(海岸線 50m 当たり)は、大浦海岸が 7,943L と最も大きく、次いで武久海岸が 4,261L、神浦海岸が 2,742L、中浦海岸が 1,160L の順であった。
- ・海岸漂着物の組成は、いずれの地点も自然物が最も割合が高かった。次いで、プラスチックの割合が高く、大浦海岸では木材(主な系統：建築資材等)も多かった。
- ・プラスチック(発泡スチロールを除く)の組成で多かったものは、神浦海岸ではペットボトルが 47%、カキ養殖用資材が 21%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統：バケツや容器等の破片など))が 30%、中浦海岸では漁網が 29%、ロープ・ひもが 15%、その他(硬質プラスチック破片等(主な系統：パイプ及びびトタンのような建築資材など))が 42%、武久海岸ではポリ袋が 12%、その他(その他プラボトル・硬質プラスチック破片等(主な系統：鉢植えの底や生活雑貨系統の破片など))が 64%、大浦海岸ではロープ・ひもが 25%、その他(硬質プラスチック破片(主な系統：かご等)・浮子等)が 56%であった。

表-4 各調査地点の海岸漂着物の容積

海域	市町	調査地点	容積 (50m当たり)
瀬戸内海側	周防大島町	神浦海岸	2,742L
	防府市	中浦海岸	1,160L
響灘側	下関市	武久海岸	4,260L
日本海側	長門市	大浦海岸	7,942L

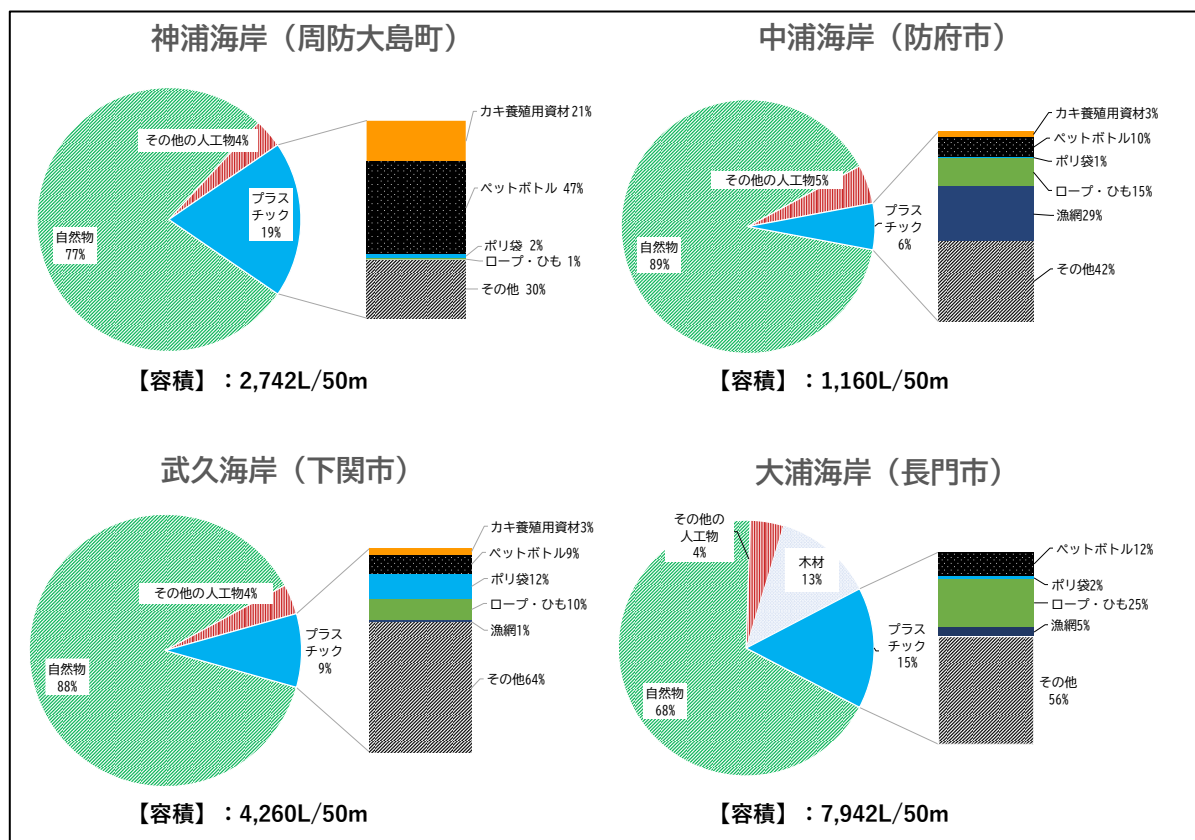


図-4 海岸漂着物の組成(容積)

注) 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある

(3) 海岸漂着物の個数(表-5、図-5)

- ・海岸漂着物の個数(海岸線 50m 当たり)は、神浦海岸が 23,912 個と最も多く、次いで武久海岸が 4,649 個、大浦海岸が 2,161 個、中浦海岸が 761 個の順であった。
- ・海岸漂着物の組成は、いずれの地点もプラスチックが最も多く、神浦海岸では 99%の割合を占めていた。
- ・プラスチック(発泡スチロールを除く)の組成で多かったものは、瀬戸内海側ではカキ養殖用資材が多く、神浦海岸は 80%、中浦海岸は 13%であった。武久海岸ではカキ養殖用資材が 25%、ロープ・ひもが 20%、その他(プラスチック容器ボトルのキャップ、ふた等)が 45%、大浦海岸ではロープ・ひもが 15%、その他(プラスチック容器ボトルのキャップ、ふた等)が 71%であり、木材(主な系統：建築資材等)も 10%見られた。中浦海岸ではロープ・ひもが 19%、その他プラスチックの割合が 58%であり、その他プラスチックのうち、食品容器等の占める割合は 59%と高かった。

表-5 各調査地点の海岸漂着物の個数

海域	市町	調査地点	個数 (50m当たり)
瀬戸内海側	周防大島町	神浦海岸	23,912個
	防府市	中浦海岸	761個
響灘側	下関市	武久海岸	4,649個
日本海側	長門市	大浦海岸	2,161個

※灌木、破片等は個数を計測していない(重量・容積のみ計測)

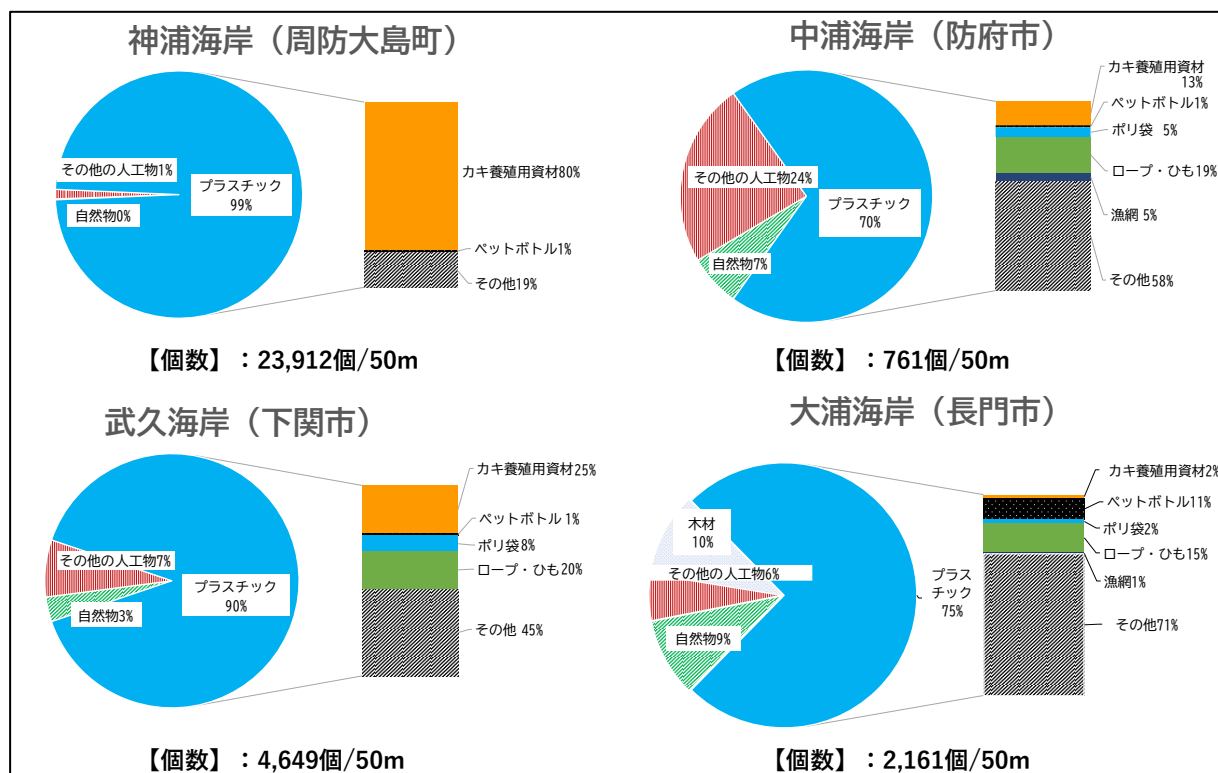


図-5 海岸漂着物の組成(個数)

注) 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならない場合がある

(4) 海岸漂着物の国別割合(表-6、図-6～図-9)

ペットボトル、ペットボトルキャップ、浮子を対象に国別割合を調査した。その際、ペットボトルはバーコード及び言語表記(以下「表記」という)、ペットボトルキャップ、浮子は言語表記から国を判別し、不明なものは除いた。

- ・神浦海岸では、ペットボトルのバーコード及び表記をもとに判別された国は日本が100%であった。また、ペットボトルキャップは日本が99%で残りは韓国であった。浮子は日本が100%であった。
- ・中浦海岸では、ペットボトル及びペットボトルキャップともに日本が100%であった。
- ・武久海岸では、ペットボトルのうちバーコード、表記ともに約70%が日本で、その他は中国・台湾、韓国の割合が高かった。また、ペットボトルキャップは日本が79%、その他は中国・台湾、韓国であった。浮子は中国・台湾が100%であった。
- ・大浦海岸では、ペットボトルのうち日本と判別されたのはバーコード、表記ともに約30%と低く、国外では中国・台湾、韓国の割合が高かった。ペットボトルキャップは日本が78%であり、国外では中国・台湾、韓国の割合が高かった。浮子は中国・台湾が92%を占めていた。

表-6 各調査地点の海岸漂着物の個数

調査地点	ペットボトル (50m当たり)			ペットボトルキャップ (50m当たり)		浮子 (50m当たり)	
	合計	バーコード有	言語表記有	合計	言語表記有	合計	言語表記有
神浦海岸	146個	61個	85個	133個	133個	1個	1個
中浦海岸	7個	1個	6個	7個	7個	0個	0個
武久海岸	40個	7個	33個	602個	602個	9個	9個
大浦海岸	68個	15個	53個	413個	413個	26個	26個

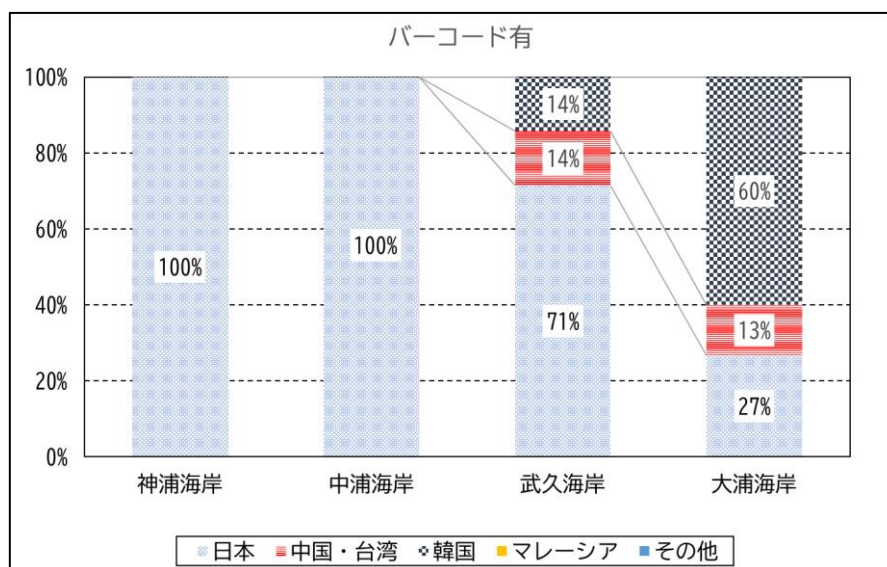


図-6 ペットボトルの国別割合(バーコードあり)

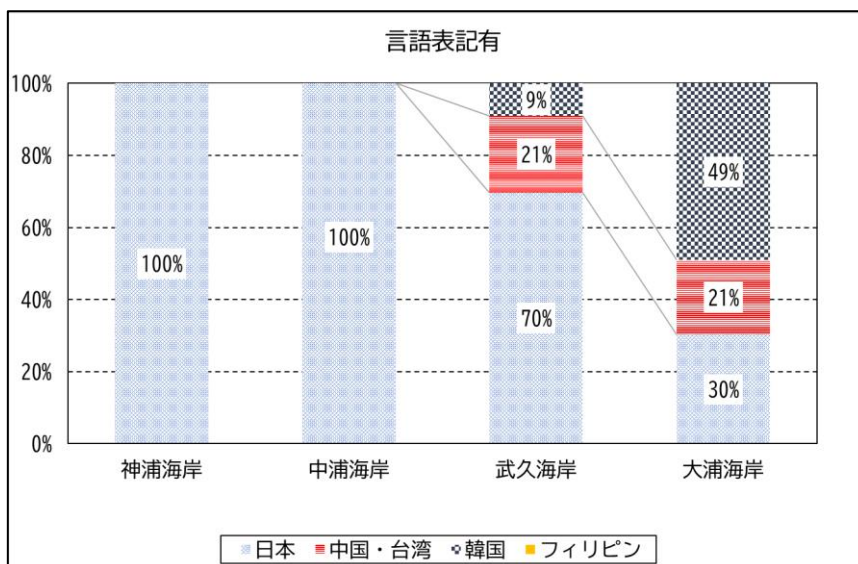


図-7 ペットボトルの国別割合（言語表記あり）

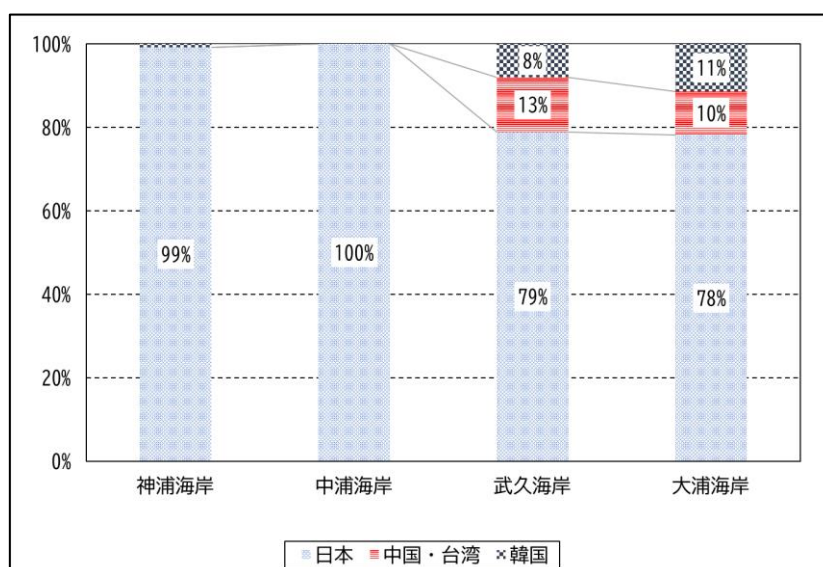


図-8 ペットボトルキャップの国別割合

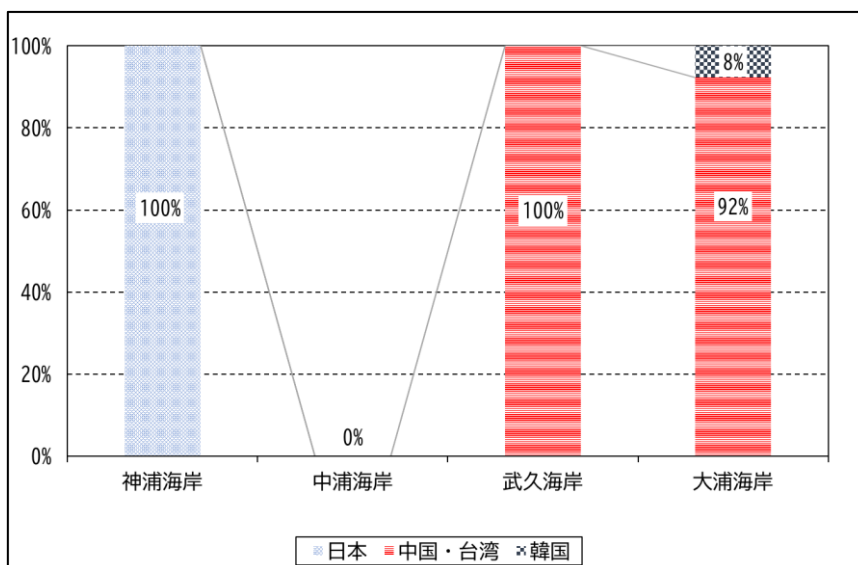


図-9 浮子の国別割合

(5) 過年度調査結果との比較

自然物を除く人工漂着物、カキ養殖用資材及び言語表記があったペットボトルの国別割合を対象に、過年度調査(R1～R5年度)と本年度の調査結果を比較した。

比較対象は各年度の同海岸の冬季調査とした。また、R1年度調査は調査範囲が海岸10m当たりであるため、50m当たりの量に換算した。

1) 人工漂着物(自然物を除く)

① 重量(表-7、図-10)

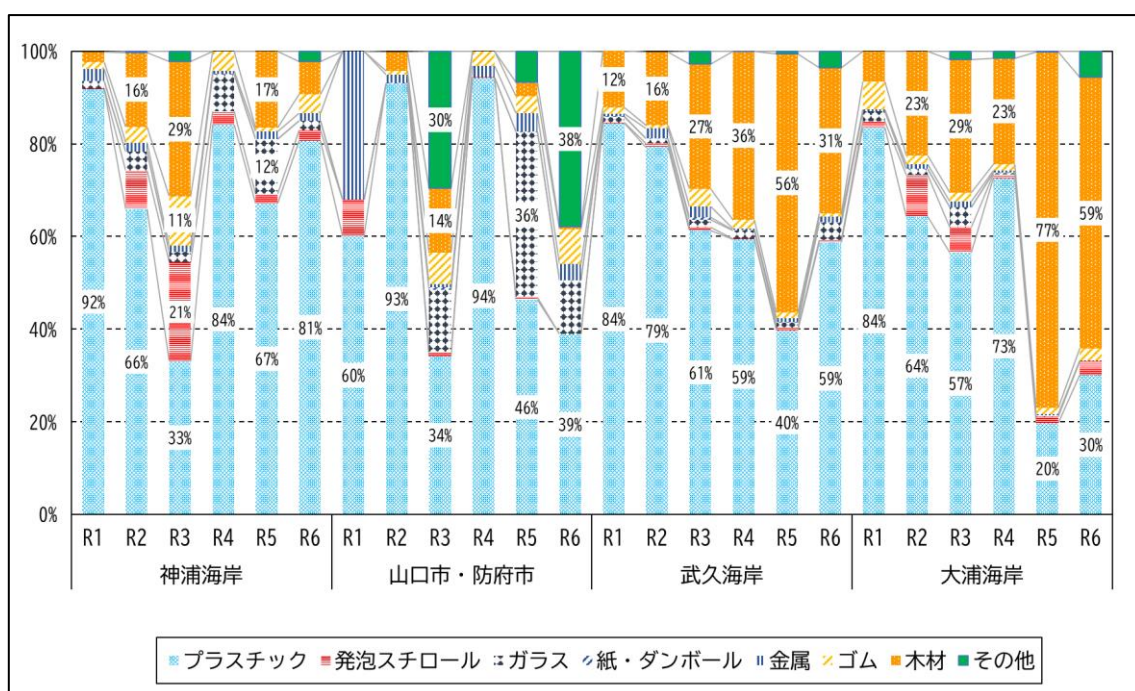
- 各調査地点での人工漂着物の重量をR5年度と比較すると、神浦海岸では5.8倍、大浦海岸では1.5倍に増加した。中浦海岸の漂着物重量は同程度であり、武久海岸では0.7倍に減少した。大浦海岸ではR1～R3年度調査で減少傾向にあったが、R4～R6年度調査にかけて増加傾向へと変化している。
- 人工漂着物の内訳をみると、いずれの地点もプラスチックが多い傾向がみられた。武久海岸及び大浦海岸ではR5年度以降、木材の増加傾向が顕著であった。

表-7 各調査地点の海岸漂着物の比較(重量)

海域	市町	調査地点	重量(50m当たり)					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	67.3kg	31.9kg	64.0kg	28.7kg	11.0kg	63.7kg
	山口市・防府市	尻川海水浴場	1.3kg	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	20.8kg	6.4kg	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	59.2kg	19.4kg	19.8kg
響灘	下関市	武久海岸	170.9kg	58.3kg	48.1kg	89.0kg	82.4kg	56.6kg
日本海	長門市	大浦海岸	601.7kg	164.7kg	68.2kg	138.6kg	207.3kg	312.5kg

注：1. 上表の値は、自然物を除く人工漂着物の総計である。

2. 「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は10%以上の値のみ表示。

図-10 海岸漂着物の比較(重量)

②容積(表-8、図-11)

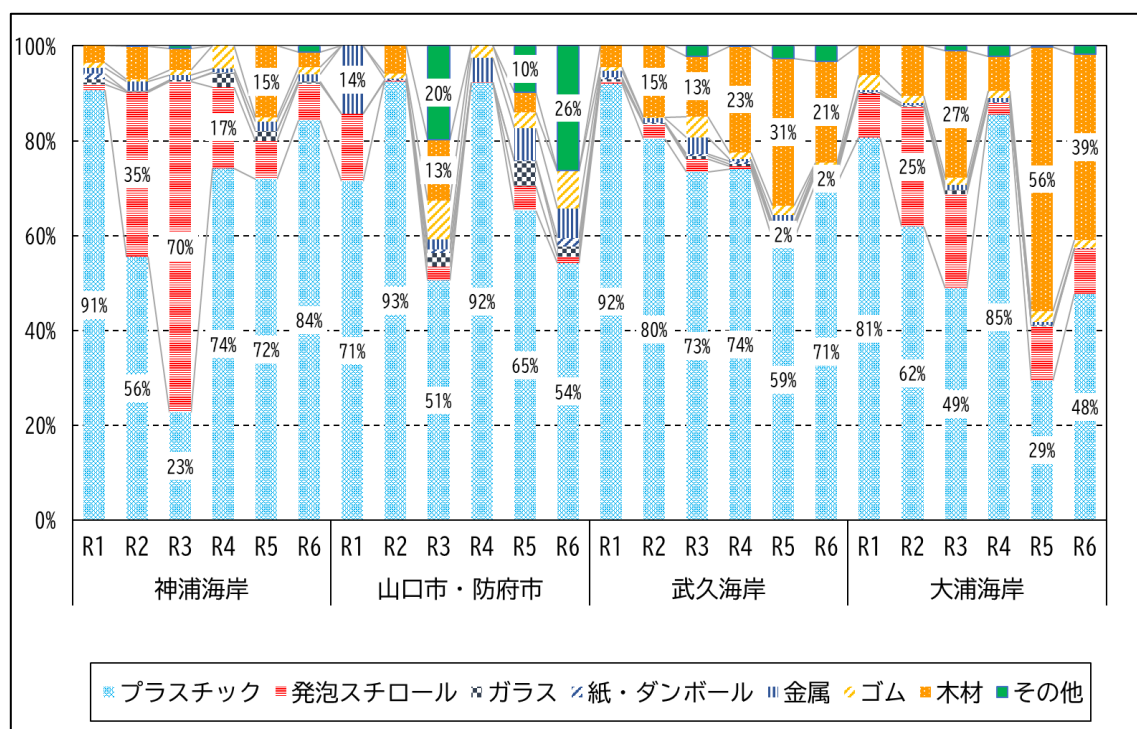
- ・各調査地点での人工漂着物の容積を R5 年度と比較すると、神浦海岸及び大浦海岸ではそれぞれ 2.8 倍、1.6 倍に増加しており、中浦海岸及び武久海岸ではそれぞれ 0.5 倍程度に減少していた。
- ・人工漂着物の内訳をみると、いずれの海岸もプラスチックの割合が高かった。
- ・調査年度によってばらつきがあるものの、神浦海岸及び大浦海岸で発泡スチロールの割合が高くなるが多かった。
- ・武久海岸及び大浦海岸では、近年木材の割合が高い傾向が見られた。

表-8 各調査地点の海岸漂着物の比較(容積)

海域	市町	調査地点	容積(50m当たり)					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	430L	564L	837L	296L	220L	622L
		山口市・防府市	35L	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	205L	31L	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	779L	277L	126L
響灘	下関市	武久海岸	1,135L	664L	394L	1,103L	934L	524L
日本海	長門市	大浦海岸	4,850L	2,141L	712L	2,287L	1,566L	2,553L

注：1. 上表の値は、自然物を除く人工漂着物の総計である。

2. 「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は10%以上の値のみ表示。

図-11 海岸漂着物の比較(容積)

③個数(表-9、図-12)

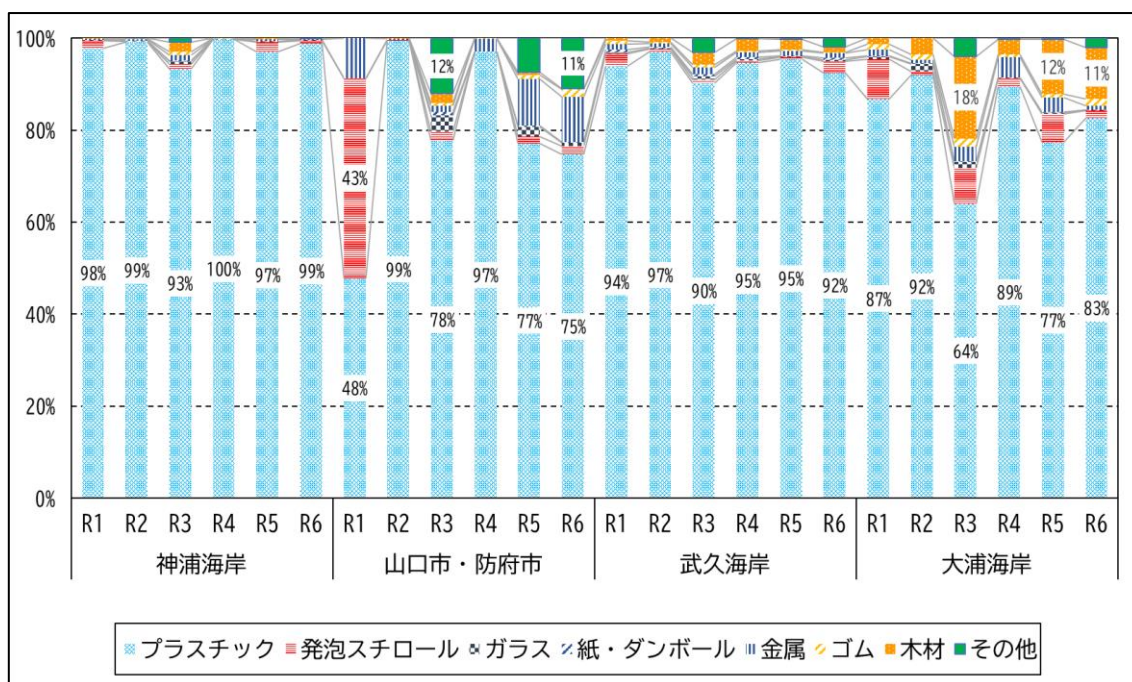
- ・各調査地点での人工漂着物の個数を R5 年度と比較すると、神浦海岸、武久海岸及び大浦海岸ではそれぞれ 9.6 倍、1.6 倍、1.3 倍に増加していた。中浦海岸では同程度となった。
- ・人工漂着物の内訳をみると、いずれの地点もプラスチックが大部分を占めていた。
- ・神浦海岸のプラスチックの割合は全調査年度で高く、93～100%の割合を占めた。

表-9 各調査地点の海岸漂着物の比較(個数)

海域	市町	調査地点	個数(50m当たり)					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	12,115個	7,672個	1,919個	16,343個	2,501個	23,882個
		山口市・防府市	115個	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	5,752個	896個	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	4,159個	739個	710個
響灘	下関市	武久海岸	6,735個	2,423個	1,659個	3,550個	2,753個	4,502個
日本海	長門市	大浦海岸	10,400個	1,571個	1,183個	2,336個	1,515個	1,954個

注：1. 上表の値は、自然物を除く人工漂着物の総計である。

2. 「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は10%以上の値のみ表示

図-12 海岸漂着物の比較(個数)

2) カキ養殖用資材(表-10、図-13)

- ・各調査地点でのカキ養殖用資材の個数を R5 年度と比較すると、神浦海岸及び武久海岸ではそれぞれ 10.1 倍、2.6 倍に増加した。中浦海岸及び大浦海岸ではそれぞれ 0.2 倍、0.6 倍に減少した。
- ・カキ養殖用資材の個数が最も多い神浦海岸で、その内訳(パイプ、まめ管、ワッシャー)をみると、パイプは R1 年度調査に過去最多でその後は大きく減少しており、低い水準で推移している。これは広島県によるパイプの買い取りによる影響を反映したものと考えられる。一方、R6 神浦海岸の調査でまめ管やワッシャーの回収個数が増えたが、これらはパイプに比べて小さく個数も多く集めにくいため、回収されずに現場に放置された結果と考えられる。
- ・武久海岸でのカキ養殖用資材は R1 年度で過去最多となっており、R2 年度から大きく減少したが、その後は徐々に増加傾向にある。
- ・今年度、山口県では 11 月 1～2 日にかけて 100mm/日以上 の降雨が観測されており、漂着物が増加した要因の 1 つであると考えられる。特に広島湾に近い神浦海岸で漂着数が多いが、年度により増減がある。

表-10 各調査地点のカキ養殖用資材の比較(個数)

海域	市町	調査地点	個数(50m当たり)					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	11,380個	7,055個	1,406個	15,789個	2,189個	22,000個
		山口市・防府市	10個	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	4,878個	546個	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	3,361個	310個	72個
響灘	下関市	武久海岸	1,205個	208個	323個	376個	412個	1088個
日本海	長門市	大浦海岸	320個	34個	19個	8個	42個	26個

注:「-」は調査未実施を示す。

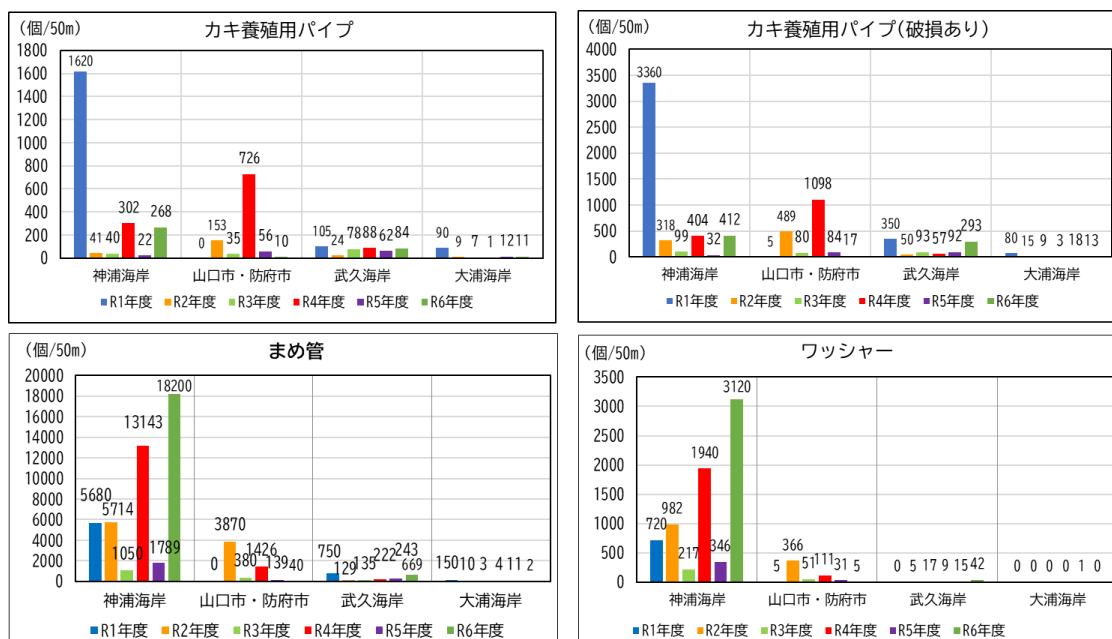


図-13 カキ養殖用資材の比較(個数)

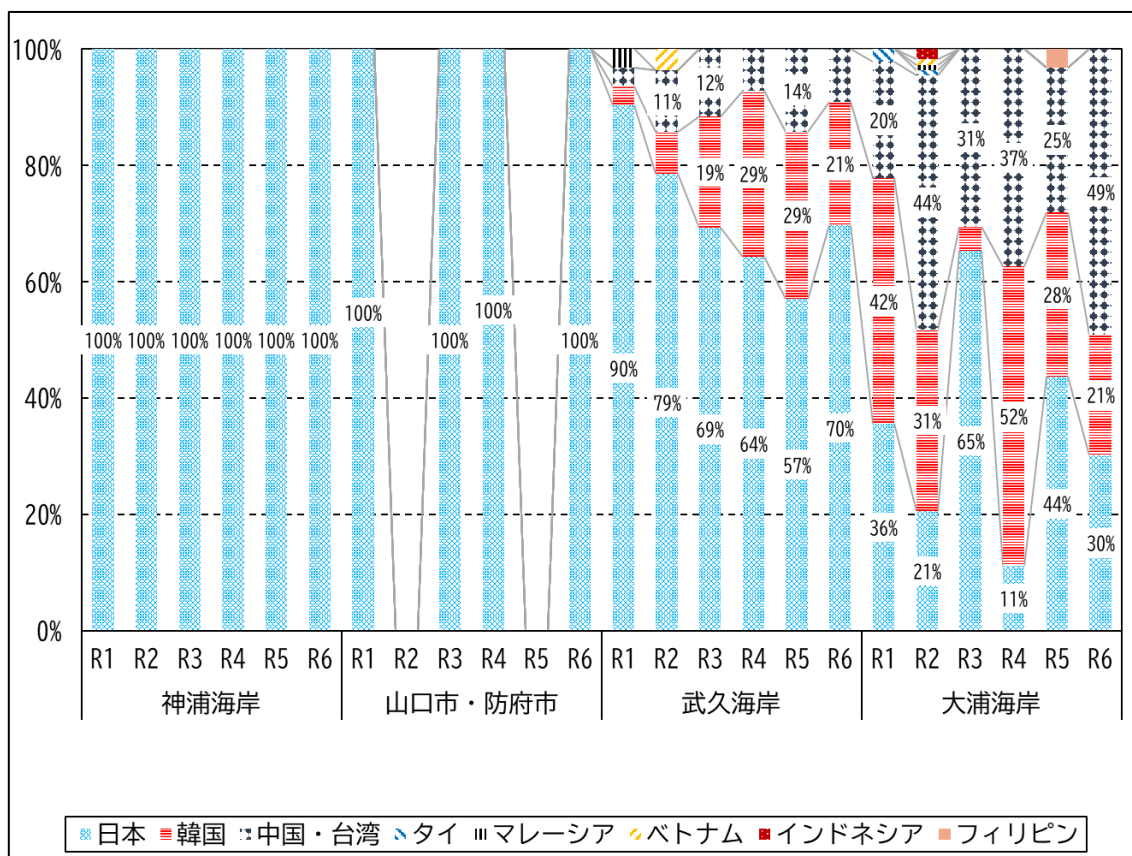
3) ペットボトルの国別割合 (表-11、図-14)

- ・ペットボトルの国別割合は、瀬戸内海側の神浦海岸及び中浦海岸では日本が 100%であり、過年度調査と同様であった。
- ・武久海岸では、経年変化をみると日本の割合は昨年度よりも増加しているものの、中国・台湾及び韓国等の国外の割合も高い傾向がみられた。大浦海岸では国外の割合がより顕著であり、半数以上が中国・台湾及び韓国の漂着物となる年度が多かった。

表-11 各調査地点の言語表記によるペットボトルの比較(個数)

海域	市町	調査地点	個数 (50m当たり)					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
瀬戸内海	周防大島町	神浦海岸	30個	51個	47個	15個	8個	85個
		山口市・防府市	15個	-	-	-	-	-
		美濃が浜	-	0個	2個	-	-	-
		中浦海岸	-	-	-	2個	0個	6個
響灘	下関市	武久海岸	155個	28個	26個	14個	14個	33個
日本海	長門市	大浦海岸	225個	112個	72個	126個	32個	53個

注：「-」は調査未実施を示す。



※グラフ内は 10%以上の値のみ表示

図-14 言語表記によるペットボトルの国別割合の比較

4. まとめ

(1) 海岸漂着物の重量・容積

- ・海岸漂着物の重量、容積は、大浦海岸(日本海側)が最も多く、次いで武久海岸(響灘側)、神浦海岸(瀬戸内海側)の順であり、中浦海岸(瀬戸内海側)ではさほど見られなかった。
- ・海岸漂着物の組成をみると、いずれの海岸においても自然物(灌木、流木)の割合が最も高かった。神浦海岸ではプラスチックの割合が他の海岸と比較して高く、重量で 28.7%、容積で 19.1%を占めていた。大浦海岸では、木材の占める割合が他の海岸と比較して高く、重量で 13.2%、容積で 12.6%を占めていた。
- ・プラスチックの組成(重量)は、瀬戸内海側の神浦海岸ではカキ養殖用資材、その他(硬質プラスチック破片等)の割合が高く、中浦海岸では漁網、ロープ・ひも、その他(硬質プラスチック破片等)の割合が高かった。響灘側の武久海岸及び日本海側の大浦海岸ではロープ・ひも、その他(硬質プラスチック破片等)の割合が高かった。ペットボトルの重量及び容積は神浦海岸で最も多かった。

(2) 海岸漂着物の個数

- ・海岸漂着物の個数は、神浦海岸(瀬戸内海側)、武久海岸(響灘側)、大浦海岸(日本海側)、中浦海岸(瀬戸内海側)の順に多かった。
- ・海岸漂着物の組成をみると、いずれの海岸でもプラスチックの割合が高く 70~99%であった。プラスチックの組成は、瀬戸内海側ではカキ養殖用資材、響灘側ではカキ養殖用資材、ロープ・ひも、日本海側ではその他(プラスチック容器ボトルのキャップ・ふた等)の割合が高かった。

(3) 海岸漂着物の国別割合

- ・ペットボトル等に記載された表記を基に判別した国別の割合は、瀬戸内海側では判別できたものすべてが国内からの海岸漂着物であった。一方、響灘側及び日本海側では国外のものも多くみられた。
- ・響灘側ではペットボトル及びペットボトルキャップは国内が 70%程度で、残りは国外(中国・台湾及び韓国)であった。
- ・日本海側では日本国内のペットボトルが 30%であり、日本国内のペットボトルキャップは 78%となっており、中国・台湾及び韓国のものが多かった。

(4) 過年度比較

- ・過年度調査(R1~R5 年度)と R6 年度の調査結果を比較すると、人工漂着物の重量は神浦海岸では R1、R3 年度と同程度で多く、中浦海岸では R5 年度と同程度、武久海岸では R2、R3 年度と同程度で少なく、大浦海岸では R1 年度を除く R2~R5 年度よりも多かった。
- ・人工漂着物の内訳でみると、漂着物の個数は R6 年度が過去最多であり、中でも神浦海岸のプラスチック(特にカキ養殖用資材)が顕著に多い結果となった。
- ・国外からのペットボトルの漂着は、過年度同様、瀬戸内海側では確認されず、響灘側及び日本海側では国外(中国・台湾及び韓国等)のものが多く確認された。

(5) 調査海岸ごとの漂着ごみの特徴

表-12 に調査海岸ごとの漂着ごみの特徴を示す。表のように、各海岸に地域特性が現れ、それぞれ特徴的な分類結果となった。

表-12 調査海岸ごとの特徴

調査海岸		特徴
瀬戸内海側	共通	・瀬戸内海は内海であり、潮の流れが複雑なため、特定の湾や入り江に漂着ごみが溜まりやすい。 ・太田川等の河川や都市部から流入するごみ(ペットボトル、生活雑貨等)が漂着しやすい。 ・漂着ごみの発生源が日本由来のものがほとんどである。
	神浦海岸	・山口県内の調査海岸のうち、プラスチックが占める割合が重量・体積・個数すべてにおいて最も多い。 ・プラスチックが占める割合のうち、カキ養殖用資材が最も多く、広島湾から流出したものと思われる。 ・カキ養殖用資材(まめ管、ワッシャー)等のサイズの小さい漂着ごみが多く、堆積しやすい。
	中浦海岸	・ロープ・ひも(漁具)、漁網等の漁業ごみが多い。 ・近くに大きな河川(佐波川、樫野川など)がある影響からか、食品容器等の陸域由来のごみも多くみられる。 ・調査年度によっては、カキ養殖用資材が多くみられる。
日本海側	共通	・対馬海流や偏西風等の影響もあり、外国(特に中国、韓国)のごみが多く漂着する。
	大浦海岸	・外国(特に中国、韓国)の漂着ごみが多く、ペットボトルの個数では日本のものよりも多い。 ・容積の大きい、発泡スチロールブイやプラスチックブイが多く漂着する。 ・一部破損したような木製パレットの破片及び建築資材のような木材が多くみられる。
響灘側	武久海岸	・日本海と瀬戸内海の間際に位置するため、日本海の特徴である外国製のペットボトルやプラスチック(菓子類、容器等)及び瀬戸内海の特徴であるカキ養殖用資材が多く漂着する。 ・都市部が近傍に位置するため、生活雑貨系統のプラスチックごみも多い。 ・ロープ・ひも(漁具)、漁網等の漁業ごみも多い。

【参考データ】

(1) 海岸漂着物の組成 (重量 : kg)

ごみの種類	瀬戸内海側				響灘側		日本海側	
	神浦海岸 (周防大島町)		中浦海岸 (防府市)		武久海岸 (下関市)		大浦海岸 (長門市)	
	重量	割合	重量	割合	重量	割合	重量	割合
プラスチック	51.4	28.7%	7.7	6.5%	33.2	6.9%	93.9	6.8%
発泡プラスチック	1.4	0.8%	0.0	0.0%	0.3	0.1%	9.4	0.7%
ガラス	1.3	0.7%	2.3	2.0%	2.1	0.4%	0.2	0.0%
紙・段ボール	0.0	0.0%	0.1	0.1%	0.1	0.0%	0.0	0.0%
金属	1.1	0.6%	0.7	0.6%	0.7	0.1%	0.2	0.0%
ゴム	2.6	1.4%	1.5	1.3%	0.4	0.1%	8.1	0.6%
木材	4.5	2.5%	0.1	0.1%	17.8	3.7%	183.0	13.2%
自然物	115.6	64.5%	98.5	83.2%	426.8	88.3%	1076.6	77.5%
その他	1.4	0.8%	7.5	6.3%	2.0	0.4%	17.7	1.3%
総 計	179.2	100.0%	118.4	100.0%	483.2	100.0%	1389.1	100.0%

注：1. 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

2. 重量の「0.0」は 0.1kg 未満、「0」は未回収を示す。

(2) 海岸漂着物の組成 (容積 : L)

ごみの種類	瀬戸内海側				響灘側		日本海側	
	神浦海岸 (周防大島町)		中浦海岸 (防府市)		武久海岸 (下関市)		大浦海岸 (長門市)	
	容積	割合	容積	割合	容積	割合	容積	割合
プラスチック	524.2	19.1%	68.3	5.9%	371.6	8.7%	1216.9	15.3%
発泡プラスチック	48.6	1.8%	1.6	0.1%	10.9	0.3%	243.6	3.1%
ガラス	2.6	0.1%	2.8	0.2%	2.9	0.1%	0.2	0.0%
紙・段ボール	0.5	0.0%	2.2	0.2%	3.8	0.1%	0.2	0.0%
金属	8.9	0.3%	7.8	0.7%	3.7	0.1%	4.2	0.1%
ゴム	9.3	0.3%	10.0	0.9%	1.9	0.0%	41.5	0.5%
木材	20.0	0.7%	0.2	0.0%	112.0	2.6%	1000.6	12.6%
自然物	2120.0	77.3%	1034.0	89.2%	3737.0	87.7%	5390.0	67.9%
その他	8.1	0.3%	33.0	2.8%	17.0	0.4%	45.5	0.6%
総 計	2742.1	100.0%	1159.8	100.0%	4260.8	100.0%	7942.7	100.0%

注：1. 割合は四捨五入の関係で合計が 100%にならないことがある。

2. 容積の「0.0」は 0.1L 未満、「0」は未回収を示す。

(3) 海岸漂着物の組成(個数：個)

ごみの種類	瀬戸内海側				響灘側		日本海側	
	神浦海岸 (周防大島町)		中浦海岸 (防府市)		武久海岸 (下関市)		大浦海岸 (長門市)	
	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合
プラスチック	23586	98.6%	530	69.6%	4164	89.6%	1614	74.7%
発泡プラスチック	171	0.7%	13	1.7%	108	2.3%	32	1.5%
ガラス	21	0.1%	6	0.8%	16	0.3%	2	0.1%
紙・段ボール	2	0.0%	1	0.1%	19	0.4%	0	0.0%
金属	35	0.1%	69	9.1%	48	1.0%	17	0.8%
ゴム	21	0.1%	12	1.6%	6	0.1%	31	1.4%
木材	9	0.0%	1	0.1%	57	1.2%	218	10.1%
自然物	30	0.1%	51	6.7%	147	3.2%	207	9.6%
その他	37	0.2%	78	10.2%	84	1.8%	40	1.9%
総 計	23912	100.0%	761	100.0%	4649	100.0%	2161	100.0%

注：1. 割合は四捨五入の関係で合計が100%にならないことがある。

2. 灌木及び破片等は個数を計測していない(重量、容積のみ計測)